

宮川

まちづくり協議会だより 5月号

令和2年4月30日現在

【世帯数】 247戸

【人口】 男：332名

女：355名

合計：687名

発行日：令和2年5月23日

発行：宮川まちづくり協議会



特集

『わかさ 宮川の歴史 追補版』

長い年月を重ね、ついに完成

発刊記念取材！

わかさ宮川の歴史
追補版

この日、『わかさ 宮川の歴史 追補版』の出版に関する福井新聞社の取材が入り、「宮川の歴史を伝える会」(編集委員)の4名が公民館に集結！

会が結成された経緯から書籍編さん途中の苦労話、そして書籍発刊へかける思いまで、みなさんご自分の記憶を整理しながら語り合いました。

宮川の歴史を伝える会



福井新聞社小浜支社記者の取材を受ける4名

Q.発刊までにこれほど時間がかかったのはどうしてですか？

A.それは、途中でパソコンの名手で文書入力担当を担っていた重田茂夫氏が物故されたり、その後何とかデータを引き継いで作業を続けていたら、今度はパソコンが故障してデータの復元に時間がかかってしまったりと、色々なことがあったからです。また、事務局として助けてくれた公民館主事が2人も代わり、その際のデータの引継ぎもスムーズにいきませんでした。そんなこんなで、自分たちもまさかこんなに発刊が遅くなるとも思わず、発刊を待っていてくれたみなさんには申し訳ない思いでいっぱいです。

Q.まず、なぜこの本を編さんすることになったか教えて下さい。

A.前作『わかさ 宮川の歴史』が出版されてから20年ほどが経った頃、当時市議会議員を務めあげた松尾剛さんが、「激変する日本社会の中で変わりゆく宮川地区の様子をきちんと記録に残しておくべきである。」と声を上げ、当時の区長会と公民館運営審議委員会の賛同も得て編さんが始まりました。けれど、当初は内内で記録をまとめるだけで、本にするつもりはありませんでした。しかし、「せっかくここまでまとめたのであれば、やはり書籍として発刊したらどうか。」という意見が次第に出始め、発刊を目指すことになったのです。



みんなの調整役、島中利夫氏

Q.この本の特徴を教えてください。

A.まず、レイアウトですが、みんなで話し合ってこれからの地誌の基準になっていくA4判・横書き2段組構成にしました。また、全ページカラー印刷になっており、挿入写真もたくさん入れました。そのため堅苦しすぎることなく、若い方たちにも気軽に手に取って読んでもらえるのではと思っています。

それと、既刊『わかさ 宮川の歴史』は大学教授や高校教員、教育委員会の方々などに執筆を依頼しており、その内容や専門性について地区外からの評価が大変高いのですが、今回は出来るだけ宮川地区住民自ら執筆に取り組みました。手づくり感あふれる地誌にな



年長者の竹中全年氏

剛ちゃんの思いを

何とか形にしたい

りました。

また、土地改良事業後に地区民に実施したアンケート結果を帯グラフで掲載したり、宮川の発展に寄与した人々として、各区から選出した方を紹介したりと、地区民参加型になっています。

Q.書籍が完成し、発起人の松尾剛さんにはもうお見せになりましたか？

A.はい。本が出来上がってすぐに松尾剛さんと、重田茂夫さんの奥さんのところへこの4人で届けに行きました。とても喜んでくれました。重田さんのお宅では、家の中にあがらせてもらって、久しぶりに奥さんとゆっくりと話ができました。

松尾剛さんは、宮川の歴史を伝える会が発足して間もなく病気になり、編さん活動からは離れられたのですが、当時編さんにかける思いは

人並ならぬものを持っておられました。今回巻末に参考資料として掲載してあるのですが、宮川地区の出来事を本当に細かなことまでご自分で年表にまとめておられました。その思いをこうやって一冊の本にすることができて本当に良かったです。



前市議会議員 松尾剛氏



色々な人の思いを
詰め込みました



細部にまでこだわった正木伸武氏



いつも冷静な増田吉裕氏

平成22年(2010)年2月に「宮川の歴史を伝える会」が結成されてから、約10年。その間次々とふりかかる様々なアクシデントにくじけそうになりながらも、みなさんの発刊へ向けての情熱は途切れることはありませんでした。なによりも、私たち宮川地区の全員で、彼らに感謝を伝えたいといけません。

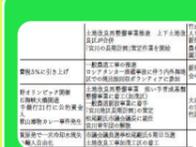
『わかさ 宮川の歴史 追補版』の読みどころ・見どころ



その1 見た目に楽しく、ビジュアル重視
・全ページ、カラー印刷。多数の写真・図を掲載
・A4判 横書き2段組構成で若い人たちにも読みやすく！



その2 宮川地区における農業形態の変遷をたどる
・難渋の末成し遂げた土地改良事業を詳述。巻頭グラビアには宮川地区航空写真の変遷を掲載し、土地改良前後が一目瞭然。
・各区稲作生産組織から広域営農組織(株)若狭の恵誕生まで



その3 色々なデータを豊富に掲載
・地区内で行った様々な事業内容やアンケート、人口集計など
・宮川地区における昭和55年以降の年表に加え、巻末に松尾剛氏作成年表を収録



その4 教育についての内容を充実
・宮川小学校100周年記念事業からその閉校、そして活用まで
・社会教育の重視から、地区内における各種団体の活動を紹介



その5 宮川地区の発展に寄与した人々の紹介
・各区から2~3名ずつ、計19名を選出
・各人物の経歴紹介に、小西淳子さんが素敵な挿絵を添える

コロナに
まけるな①

宮川の

美しい自然

みなさん、今月になって突如目に留まるようになった、旧宮川小学校周辺の畑を一面に赤く染める植物に驚かれたのではないのでしょうか。自粛生活が続いて気分が滅入る中、散歩や通勤途中に道行く宮川地区のみなさんの心を癒してくれています。

これは、ストロベリーキャンドルというマメ科の植物です。昨年ここにひまわりの種を蒔いたものの成長が芳しくなかったため、(株)若狭の恵と宮川グリーンネットワークが景観保全と土壌改良の目的で種を蒔いてくれました。この後花が咲き終わったら畑に漉き込むらしいのですが、何とも美しく、一石二鳥の花ですね。

ストロベリーキャンドル

【科名】マメ科

【別名】クリムゾンクローバー、
ベニバナツメクサ

【主な花期】4月~5月

【原産地】ヨーロッパ



本来は多年草だが、暑さに弱い日本では夏に枯れてしまうために一年草として扱う。白い花を咲かせる品種もある。

【日常の手入れ】

タネを採らないのであれば花が咲き終わった茎は切り落とす。そうすることで株の消耗を防ぎ、花を長く楽しむことができる。

夏頃には暑さで枯れてしまうので、毎年楽しみたい場合は秋に種をまいて育てなおす。

【増やし方】

秋に箱や浅鉢に種をまいて、間引きながら苗を育てていく。ある程度の大きさに育ったら鉢や庭に植え付ける。横に広がるので、株間20~30cmの間隔をとる。ある程度の寒さに当てないと花が咲かないので屋外で育てる。

【緑肥植物として】

マメ科植物特有の根粒菌は根に住んでおり、肥料の要素のひとつである窒素分を合成することができる。

[参考]ヤサシイエンゲイ http://yasashi.info/su_00020.htm

コロナに
まけるな②

先月号の協議会だよりでよびかけたこの企画。はたして作ってくださる方はいるかと不安でしたが、6名の方から気持ちのこもった色とりどりのマスクの提供を受けました。おかげで宮川保育園児13人と宮川地区の小学校(3年生以下)の児童18人の計31人に、布マスクを一人2枚ずつ送ることができました。ありがとうございました。

かわいい♡



小学生へは、児童の家のポストへ届けました。

それぞれに工夫がいっぱい。

宮川公民館企画! 子どもたちに
まずくを
おくろう



保育園へは館長みずから届けに行きました。

人混みでは

マスクをつけましょう



5月17日(日)

区長会のみなさんが、旧宮川小学校へ続く歩道脇に生える桜の枝木を剪定してくださいました。

おしらせ



野木駐在所の 駐在員さんが代わりました

車田恭佑さんに代わり、4月から若狭町がご実家の
大崎勝輝(オサキカツキ)さんが赴任されました。

プロフィール

生年月日 1997年4月3日

趣味 バイクのツーリング

特技 スポーツが得意です
(野球・陸上部でした)



特別定額給付金詐欺が他県で検挙されました。福井県内ではまだ被害は出ていませんが、不審な電話やメールが自宅に届いたという事案がありました。変だと思ったらお近くの警察署や警察相談専用電話(☎9110)、または消費者ホットライン(☎188)へご相談ください。

6月の予定

国と県の緊急事態宣言を受けて5月20日まで続いた「貸館業務と学校開放施設利用の停止」は終了しました。今後は、今まで通りの感染予防と、ソーシャルディスタンス(社会的距離)を可能な限りとることを心がけて、みなさまの生涯学習や健康維持のために公民館をご利用ください。

16日(火) すこやかクラブ定例日(10:00～、宮川公民館)
※ 小浜市のクリーンアップふくい大作戦は、コロナウイルス感染防止のため、中止になりました。

休館日 1日(月)、8日(月)、15日(月)、
21日(第3日曜)、22日(月)、29日(月)
※ 土日の開館時間 9:00～17:30

ご協力をお願いします。

6月6日(土)
(小雨決行)
8:00～8:30
小浜美郷小学校
資源回収



【注】各自回収物を旧宮川小学校へお持ちください。



敬老会の中止

先月の協議会だよりでもお伝えしましたが、今年度の敬老会は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止します。敬老会対象者の方には、冊子と記念品をお届けしますので、お待ちください。
宮川地区区長会・まちづくり協議会

編集後記

4月・5月と地区行事や公民館事業の何もかもが無くなり、協議会だよりのネタをどうしようと悩む日々。けれど、何かみなさんにお伝え出来ることはないかなと身の回りに目をやってみると、宮川地区には豊かな自然と温かい人びとがいました。ストロベリーキャンドルの花畑を宮川地区外から見に来られた方が、「自粛ばかりで気が滅入る毎日だけど、こうやって綺麗な花を見ることができて良かった。宮川地区はすごいね、」とおっしゃっていました。「病気をしたせいで手がしっかり動かなくて綺麗に作れなかったんやけど、宮川の子どもたちへあげて。」と、丁寧に縫われたマスクを持ってきてくださる方がいました(それでも私が縫ったマスクより上手)。そして、今月号の特集でお伝えした、コロナ騒動の中でもみなさんの手元へ早く本を届けようと動いて下さった「歴伝」のみなさんたち。日本人特有の、「不安への集団パニック」に流されることなく落ち着いて周りを見つめれば、コロナ騒動の以前以後とで何も変わっていない宮川地区があります。みんなで、心の免疫を上げましょう。(Y)